〈資料紹介〉

三舟文庫寄贈資料の紹介 －2016年度冬季企画展によせて－

PD 学芸員 門 井 慶 介
（日本古代史）

三舟文庫は、大谷大学教授で倶舎論・唯識の研究者であった舟橋水哉氏（1874～1945）が創設した文庫である。文庫名の「三舟」とは水哉氏の雅号であり、自らが命名したもの。その収蔵品は和本・洋本・書画・骨董・古瓦など多方面にわたっており、これらは広く一般に開放されていた。

水哉氏は、大正15年（1926）に大谷大学教授を辞したあと、自坊である愛知県豊橋市蓮泉寺の住職となり、昭和５年（1930）には蓮泉寺境内にコンクリート造の納骨堂兼書庫が建てられ、ここに三舟文庫が設置された。昭和33年（1958）に大谷大学図書館で開催された展観目録には「文庫の規模は間口二間奥行三間の二階建、鉄筋コンクリート、前面に階段があって直ちに二階へ上り、二階から地下室へ降りるような形で一階へ降りるようになっている。その頃小学校の校庭によく見受けられた御真影奉安庫をかたどったものである。そして一階を納骨堂に、二階を書庫にしていた。前面の柱はエンタシスにしてふくらみをつけ、同じく階段の側面には法隆寺の古瓦の文様を配するなどしたところにも、故人の好古趣味があらわれていた」と文庫の様子が述べられている。昭和20年（1945）に空襲によって罹災したが、コンクリート造であった納骨堂や収蔵品は被害を免れている。その後、戦後の区画整理により蓮泉寺の境内地は縮小され、納骨堂も移転した。

それでは、三舟文庫には何点ほどの資料があったのだろうか。水哉氏によって『三舟文庫目録』が作成されているが現在のところその所在は未確認であり、全体数を知ることは難しい。昭和33年に水哉氏のご子息である舟橋一哉氏によって、三舟文庫の資料が大谷大学図書館へ寄贈され、あわせて図書館で展観が行われた。このときの展観目録である『三舟院舟橋水哉講師　三舟文庫寄贈貴重図書展観目録』には、寄贈資料と個人所蔵資料を合わせて174点が載せられている。また、図書館に保管されている寄贈の際に作成された『三舟文庫目録』には136点。このうち約100点が大谷大学に所在している。一哉氏からの寄贈時に作成された目録には、おそらくもとの『三舟文庫目録』の番号であろうと思われるものも見えるため、その所在も含め、今後確認していく必要がある。

三舟文庫は、神田文庫などの他の文庫のような目録が公刊されていないが、中国・朝鮮・日本の古写経、古写本、古活字本など非常に豊かな蔵書構成となっており、きわめて貴重な文庫である。しかし、昭和33年の展観以降、三舟文庫や資料はほとんど取り上げられてきておらず、一般的な認知度は高くない。

このたび大谷大学博物館では、2016年度冬季企画展として2017年１月11日（水）～２月10日（金）まで三舟文庫の展示を行う。それにあわせて二点ほど紹介することにしたい。

『選択本願念仏集』二巻 2 冊

紙本墨書（宗丙204）

建久 9 年（1198）に平安時代の僧で浄土宗の開祖である法然房源空（1133〜1212）が九条兼実の要請により撰述したもの。称名念仏による浄土宗の開教を宣言した。下巻奥書に「旹天正十七年〈己 / 丑〉季正月廿五日書写之畢」「浄土末□沙門因空」とあり、天正17年（1589）に浄土宗の因空という僧によって書写されたものであることがわかる。

『摧邪輪』三巻（存 2 冊）　紙本墨書（宗丙213）

鎌倉時代の華厳宗の僧明恵房高弁（1173〜1232）が、建暦 2 年（1212）に著わした最も著名な『選択本願念仏集』の批判書で、上中下の三巻からなる。

本書は上中の二巻のみで下巻を欠く。上巻奥書には「于時永正四年〈丁 / 卯〉十一月廿五日於法身院神前以高山寺本書写之処也　老比丘法印権大僧都禅海〈七九 / 有畏〉」、中巻奥書には「于時永正五年三月五日於神護寺法身院鎮守神前以高山寺本書写畢　老苾蒭法印権大僧都禅海」「于時慶長十六禩正月十六日於東京今出河□菴終書功畢　衰翁真影空鏡□齢六十八」とあり、どちらも神護寺法身院にて高山寺本を書写したものである。中巻はそれを慶長16年（1611）に転写したものであることがわかる。ここに見える高山寺本とはどのようなものか不明であるが、奥書からすれば高野山大学所蔵本と同系統である可能性が高い。